

無作為抽出等ワークショップ実施報告

I 環境について考える中高生世代ワークショップ

日 時：平成28年12月27日（火）午後1時30分～午後5時
 会 場：武蔵野プレイス4階 フォーラム
 参加者：中高生35名（男子17名、女子18名）
 テーマ：ワーク1 「最近気になっている環境のこと、私が実践している環境にやさしいこと」
 ワーク2 「多くの人に環境の現状や大切さを知ってもらうための方法を考える」
 その他：子ども政策課所管の大学生サポーターと連携し、4名がファシリテーターとして参加

1 プログラム

時間	内容
13:30～13:35	開会、スケジュール説明
13:35～13:50	自己紹介(アイスブレイク)
13:50～14:20	ガイダンス 「環境ってなんだろう？ 私たちの暮らしとつなげてみよう」
14:20～14:25	グループワークの進め方
14:25～15:05	個人作業、グループワーク1
15:05～15:20	休憩
15:20～16:10	個人作業、グループワーク2
16:10～16:55	発表、質疑応答、投票、結果発表
16:55～17:00	閉会、アンケート記入後解散

2 発表内容（ワーク1の発表より抜粋）

（グループで多かった意見や紹介したい意見を発表）

(1) 気になっている環境のこと

- ①地球温暖化、寒冷化、異常気象
- ②気候の変化による野菜価格の高騰
- ③森林減少（自然破壊）、汚染（大気・水）
- ④ごみ問題（再利用、分別含む）、食品ロス（給食でどのくらい廃棄されているのか）
- ⑤トイレのふたの開け閉め（節電）

(2) 私が実践している環境にやさしいこと

- ①ごみの分別、3R、食べ物を残さない、エコバックの持ち歩き、裏紙の使用
- ②環境マークのついている商品の購入
- ③節電・節水
- ④交通手段の見直し（公共交通の利用）

3 投票結果（ワーク2の発表内容に投票、得票数順）

(1) 自分たちにできそうな、多くの人に環境の現状や大切さを知ってもらうための方法

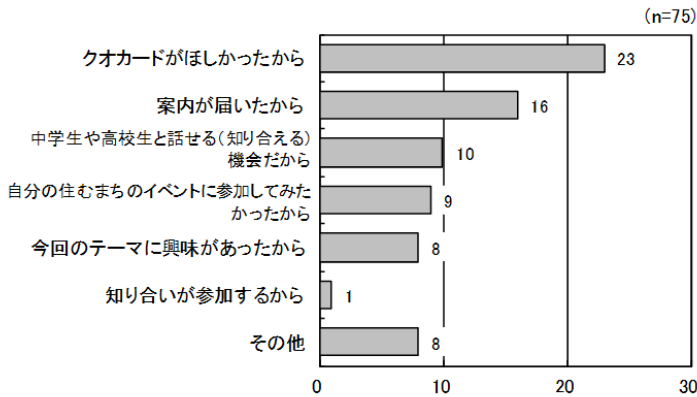
- ①祭りのブースと試飲会：環境に関わるスペースを設けて、環境マークのついた商品の試飲会を行い、環境にやさしい商品を買う必要性を伝える。
- ②学生の学生による学生のための環境イベント：気候や気象、衛星について、体験イベントを交えて伝える。
- ③食品ロス：週に何回かこまめに買い物に行くことで、賞味期限切れの食べ物を減らす。
- ④環境のことをチャレンジっばいマンガにして配布する。
- ⑤講演会：年の近い若い有名人に学校に来て講演をしてもらうことで、学生や若者に環境のことを知ってもらう。
- ⑥ネットで伝えよう！：交通手段の見直しやごみの分別、節電などの小さな意識を持ってもらったり、イベント告知をしたり、SNSで環境の情報を拡散させる。

(2) 大人にやってほしい、多くの人に環境の現状や大切さを知ってもらうための方法

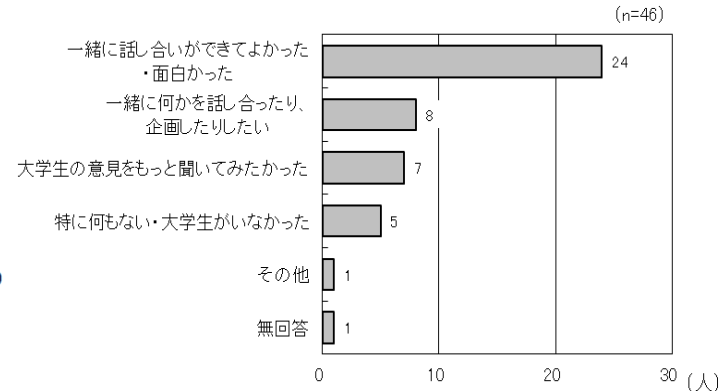
- ①温暖化と車：電気自動車や水素で動く車にして、エコカーに必要な設備等を整える。80年後にどうなっているかを完全再現する。
- ②講演会の企画：環境への対策をしたときとしないときの比較など、具体的な数値を示して説得力をアップする。セッションやワークショップなどで意見を深める
- ③学生が企画・立案したものを大人が実現する。情報を伝えるためにネットやSNSなどをツールとして用いる
- ④ポイント制度をつくる：ごみの分別やキャップの回収に協力するとポイントが貯まり、そのポイントで景品（割引券）がもらえる。
- ⑤広告：テレビCMや駅の大きなモニターで感興のことを流す、ごみ袋に「本当に捨ててもいいの？」と、レシートの裏にはごみの分別方法を、公衆トイレには「水を大切に」と書く。学校の太陽光発電システムは発電量がわかるようにする。
- ⑥イベントの企画・開催：温暖化や自然破壊について伝えるために、暑さ体験や音楽・映像などとコラボしたイベントをする。

4 アンケート結果より

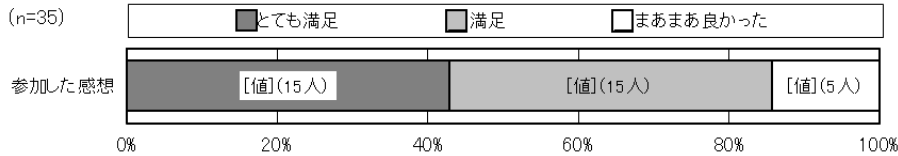
①参加理由（複数回答）



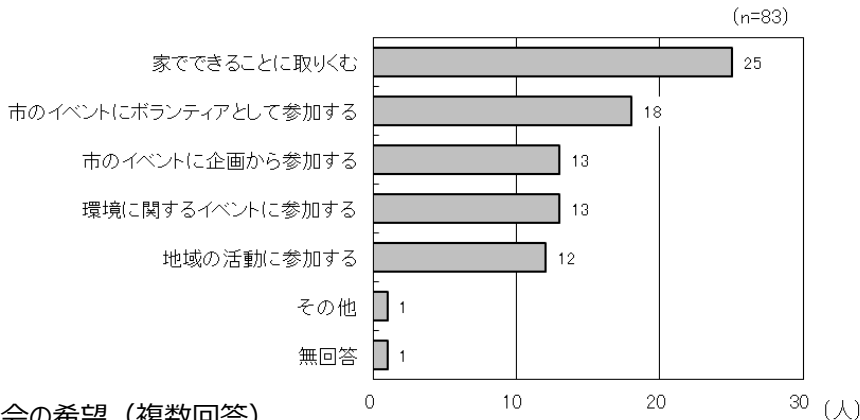
②大学生のサポートについて（複数回答）



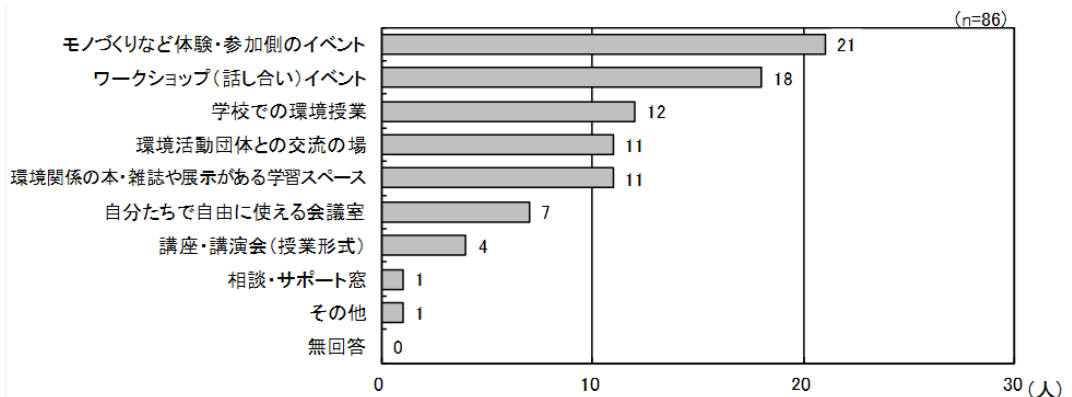
③感想



④環境について今後やってみたいこと（複数回答）



⑤場や機会の希望（複数回答）



II エコプラザの整備に向けた市民ワークショップ

日 時：平成29年1月28日（土）午後1時30分～午後5時

会 場：武蔵野市役所 西棟811会議室

参加者：15名（男性5名、女性10名）

テ ー マ：ワーク1 「最近気になっている環境のこと、私が実践している環境にやさしいこと」

ワーク2 「多くの人に環境の現状や大切さを知ってもらうための方法を考える」

1 プログラム

時間	内容
13:30～13:35	開会、スケジュール説明
13:35～13:50	自己紹介(アイスブレイク)
13:50～14:10	ガイダンス 「エコプラザ（仮称）と武蔵野市の環境について」
14:10～14:15	グループワークの進め方
14:15～14:45	個人作業、グループワーク1
14:45～14:55	休憩
14:55～15:35	個人作業、グループワーク2
15:35～15:50	模造紙の作成、発表準備
15:50～16:05	個人シートの作成
16:05～16:45	発表、質疑応答、投票、結果発表
16:45～17:00	閉会、個人シートの共有、アンケート記入後解散

2 発表内容（ワーク1の発表より抜粋）

（グループで挙がった意見や発表の中から抜粋）

(1)気になっている環境のこと

- ①地球温暖化、環境破壊／異常気象、海面上昇、四季の消滅、アラル海の消失
- ②再生可能エネルギーへの転換、省エネ
- ③森林減少、生態系・水質汚染による食への影響、緑・野菜の個性の消失、大気汚染
- ④ごみ問題（再利用、廃材利用、過剰包装、分別）
- ⑤喫煙マナー
- ⑥動物被害・対策

(2)私が実践している環境にやさしいこと

- ①ごみの分別、3 R、エコバックや水筒の持ち歩き、ごみ拾いボランティア、リサイクルショップの利用、廃油処理、裏紙の使用
- ②節電・節水、無駄遣いをしない
- ④交通手段の見直し（徒歩、自転車、公共交通機関で移動する）
- ⑤ライフスタイルの見直し、丈夫な身体づくり

3 投票結果（ワーク2の発表内容に投票、①～③は得票数順、④は特徴のあったものとして記載）

(1)市民の力でできる、多くの人に環境の現状や大切さを知ってもらうための方法

- ①コミセンの活用：コミセンのプログラムに「環境を考える」を入れて、多くの人に考えてもらう機会をつくる。
- ②ごみの分別と減量：地域のコミュニティで情報を共有し、ごみ出し場などの毎日見る所にキャッチフレーズを設置する。
- ③リアルなメリット：マイバッグや水筒持参など、環境にやさしいことには、何らかのリアルなメリットがあることを市民同士で楽しく共有する場をつくる。
- ④情報の発信：SNSでの発信やスーパー・コンビニ等の店頭でごみ削減のチラシを配る。啓発のための絵本やビデオを行政の支援を受けながら作成し、配布する。

(2)市や企業などにやってほしい、多くの人に環境の現状や大切さを知ってもらうための方法

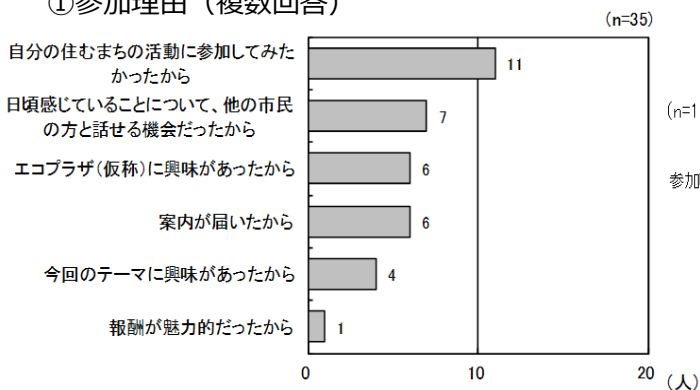
- ①ポイント制によるごみ袋の無料配布：マイバッグや水筒持参などをポイント制にして、ポイントが貯まったら、有料ごみ袋と交換する。ごみの分別や減量について情報発信するために、イベントやゆるキャラ、文化人への無償依頼、駅・教育機関等公共施設などを活用する。
- ②市による周知と企業の協力：公の場でもっとPRし、講座を開く。市民が楽しめる企画をつくる。
- ③地域の情報拠点：環境に関する情報を集めて発信したり、環境のことが学べたりできる地域の環境情報の拠点をつくる。
- ④デポジット等の拡大：リターナルびんやデポジット、リサイクルボックスなどを拡充し、使い捨てしない社会を目指す。

4 個人シート（私の環境宣言）

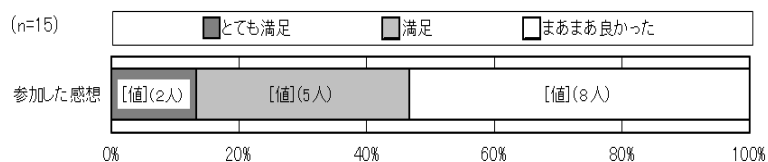
- コミセンや町内会の活動を通して環境のコミュニケーションをはかる。
- 家族で正しい分別をする。
- 環境に優しいことをすればリアルなメリットが得られるとわかれば、家族や友だちにもおすすめできる！自分でできることから1つずつやっつけていこう。
- 市報をなるべく読むようにします。自分の手の届く範囲のごみは捨てます。いろいろな人とコミュニケーションをとって情報を増やします。
- 日常生活のムダ遣いを見直す。
- こまめにON/OFFする。
- ゴミの減量・分別を楽しく広める！！まずは自分から！
- 省資源行動を広げるためにSNS等でもっと発信します。
- 皆で仲良く、自分の出来ることは続けたい。
- いろいろな意味で負担少なく、、、
- これから真剣に環境問題に取り組んでやっていきます。
- さらにゴミの減量に取り組みます！
- ゴミの分別、リサイクルと共有
- ゴミの減量と分別。よりよい環境を守りたい。
- ゴミの分別と減量を心がけ、家庭だけでなく、街のボランティアなどにも参加してみる。

5 アンケート結果より

①参加理由（複数回答）



②感想



③場や機会の希望（複数回答）

